

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100363		
法人名	シルバーハウス株式会社		
事業所名	グループホーム びえいの郷		
所在地	上川郡美瑛町大町2丁目5番14号		
自己評価作成日	令和5年 5月 2日	評価結果市町村受理日	令和5年6月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0173100363-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和 5年 5月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

びえいの郷の理念は介護の理念のみならず、職員に対しての理念でもあり、入居者、職員の区別無く「あるがままに一人ひとりの個性を尊重し…共に暮らし、そして支えあう」ことを念頭に置き日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○ 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○ 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○ 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○ 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○ 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所の目につく所に提示し、名札の裏に入れて常に意識し、管理者と職員で実践できるように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、幼稚園児の訪問や事業所のお祭りにはボランティアを受け入れ、地域住民やご家族を招いて開催していたが、コロナ禍ボランティアの受け入れは中止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議で、認知症についての情報交換や事例検討を行い、運営推進会議では、入居者様の状況や認知症についての質問を受付けて、理解して頂けるように話し合っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催してご家族や地域の方の参加を募り、現状の報告や意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度、役場主催で地域ケア会議が開催されるが、コロナ禍オンラインになる事もあったが各事業所同士と連携しサービスの向上に心掛けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回の身体拘束廃止委員会と年2回の職場内研修を行い、身体拘束に繋がるケアや言葉使い等の確認を行っている。防犯目的で玄関は施錠しているが、外出の希望があれば速やかに解除し行動を見守っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で虐待防止に関する研修を行い、職員一人ひとりが自己評価する機会を作り、職員間でも声掛けを行い防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度の研修を職場内外で参加する機会を作り、制度について学ぶ機会を増やしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時には、十分な説明を行い、理解できるまで説明や話し合いを行っている。個々の事情に合わせ、体験入居を活用して頂くなど、柔軟な対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には、日常的に要望等の確認を行っています。ご家族の方には、アンケートや面会時に意見や要望を聞き取り運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、業務改善会議を開催し、研修や職員からの意見や要望を提案出来る機会を作っています。意見や要望は代表者に報告し、柔軟に対応して反映出来るように務めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、働きやすくやりがいのある職場環境や労働条件の改善の為に、職員の実績や努力を把握し、意見や要望を代表者に報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の計画を立て職場内研修を行っている。コロナ禍、外部研修の参加は少なかったが、資格習得の為に講習の費用負担等の支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	町役場主催の会議や講習会の参加により、他事業所と交流する機会があり、利用者の紹介や情報交換をしてサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時、本人の願いや要望を把握し、理念でもある家庭的な雰囲気の中で安心して暮らして頂けるように努めています。常に声掛けを行い、対話の機会を作り信頼関係づくりにも努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談で、ご家族の要望や不安等を確認して、幅広く選択できるように提案する事で柔軟な対応をし、入居後も、毎月のお便りで日々の生活の様子を知らせる事で不安解消に努め、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時、ご家族等からの情報から必要とされるサービスを相談し、他に適しているサービスがある場合は連絡を取り相談している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にも掲げているように『家庭的な雰囲気のもとで共に暮らしそして支え合い』を心掛けて、温かい関係作りに努め、共に穏やかに暮らせるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のご家族へのお便りで、健康面や生活の様子等を伝え、面会時やお電話でご家族からの意向を聞き取り、共に支援出来るように心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、これまで慣れた場所や人との関係が継続できるように、知り合いが気兼ねなく会いに来られる様な雰囲気作りに努めています。コロナ禍、長時間の面会は自粛して頂きました。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等の活動の機会を多く取り入れ、職員も参加し、利用者同士が円滑な関係を維持出来るように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で契約が終了となった後も、必要に応じ入院中の洗濯物やオムツ等の補充を行い、ご家族の要望に柔軟に応えられるように努め、負担や不安を軽減出来るように努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話や表情や行動からも思いを察し、本人の思いに寄り添ったサービスが出来るように、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から、これまでの生活習慣や利用しているサービス等を聞き取り、ご本人が望んでいる生活習慣を継続出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、1日の過ごし方や心身状況が違うので、生活のリズムや興味のある事、発揮できる力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族から生活の意向や願いを確認し、関係者からも意見を聞き取り介護計画を作成しています職員や看護師の意見も聞き取り、アイデアに反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、小さな変化等は個別の気づきノートに記入し、会議等で情報を確認し話し合い、ケアの見直しに努めています。ご家族とは、毎月のお便りに記入して情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や要望を確認し、柔軟な対応を心がけ、協力出来る事があれば支援できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	温泉施設や近隣のお店に食事に行ったりしていたが、コロナ禍で自粛していたが、出前を取ったりテイクアウトを活用した。希望者には、近隣のお店に買い物に行かれるのに同行し、暮らしを楽しめるように支援した。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍、かかりつけの病院の協力で、オンライン診療や訪問診療を受ける事が出来、感染予防の徹底が出来た。ご本人やご家族の要望に応え、希望される病院を受診する等柔軟な対応をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師を配置し、介護職員と入居者の方の心身状況の確認と健康管理を行っている。また、かかりつけの医療機関と連携が取れており、適切な受診ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が同行し、本人の状態を提供し治療の内容を確認している。入院中は洗濯物やパットの補充を行い、ご家族の負担の軽減に努めている。退院時も同行し、情報を得て適切な対応が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期の意向を確認し、事業所が対応できるケアについて説明を行っている。疾患の進行で入退院を繰り返す場合は、主治医や看護師・ご家族と話し合い、本人が望まれる支援に取り組めるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内研修で、緊急時の対応に関する研修やADLの取り扱い方法の確認を行った。消防署の協力により救急救命心肺蘇生法の講習も受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した避難訓練を消防署の協力を得て、年2回行っている。非常災害時に必要な物品を確保し、顔写真入りの確認表を作成し災害時に備えている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親密な関係を築きながらも慣れあいにならないように、一人ひとりの個性や症状を理解し、尊重する対応を心掛けています。定期的に職場内で接遇等の研修をして、意識の再確認を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望を確認し自己決定が出来るような声掛けや環境に努めています。時には、2択して選びやすいように配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人のペースや習慣・希望・体調等を考慮しながら希望に添えるような支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お正月やひな祭りには、着物を着てお化粧しマニキュア等をして、おしゃれを楽しまれました。入浴時は、着換えの衣服も2択して選びやすい工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍、外食を控えているので、出前を取ったり、ラーメンを作ったり、ホットプレートでジンギスカンを焼いて食べる等、皆で楽しみながら食べるが多かった。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて、副食を刻み大きさを替えたり、ペースト状で提供する等の咀嚼や嚥下状態・口腔内の状態に合わせた対応をしている。食事量や水分量は、チェック表に記入し、職員全体で把握しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援をおこなっています。一人ひとりの口腔内に合わせた用具を準備している。夜間は義歯洗浄剤を使用し、清潔を保持出来るように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや間隔の把握に努め、訴えが難しい方は表情や行動からトイレ誘導を行い、トイレでの自立した排泄の支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに合わせ、牛乳や豆乳・ヨーグルト等を提供している。水分量の増加を図るため、飲み物の種類を増やして提供した。毎日のテレビ体操やごっくん体操にもちからを入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決まっているが、順番はくじ引きにして決めている。一人ひとりのペースで入浴して頂けるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、その時々々の体調に応じて休息を勧める等、個々の希望に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院した時は、都度受診記録簿を作成して情報を共有している。薬の変更があった場合は、医師の説明を看護師に報告し、薬の注意事項の確認をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせ白鳥見学や桜見学等、四季を感じれるような気分転換を図れるように支援している。毎日のおやつは、手を加えホットケーキやお汁粉、パフェ等を提供し喜んで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍、人が集まる所への外出は出来なかったが、お天気の良い日は希望者を募り、施設回り等の散歩やドライブ等で外に出る機会を作った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は通常事務所で預かっているが、お小遣い程度のお金を所持されている方もおり、ご本人の希望で買い物に付き添い、ご自分で選んで購入できる支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に、電話をかけたり電話の取次ぎの支援をしている。携帯電話を持参されている方もおられる。手紙を書くことが好きな方もおり、ポストに投函する支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には、行事毎の写真や季節に合わせた飾り付けをして、季節感を感じてもらえるように工夫している。定時に湿度と温度を測定して居心地良く過ごして頂けるように配慮した。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、気の合う利用者同士を見極め、隣に座ってもらう等の配慮をしている。玄関には、椅子を配置し、一人になれる場所作りも行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の配置は、ご本人の状況に合わせ、都度カンファレンスにて話し合いをしている。タンスにはラベルを貼り、何が入っているかは分かりやすくしている。自宅で使い慣れたものを持ってきて頂き、混乱なく過ごして頂けるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には本人の表札や写真をはり自立して活動が出来るように配慮している。また、共有空間は定期的に話し合い安全に移動ができるか検討している。		